

施策コード 82	施策名 三遠南信・中京圏の連携推進	政策名 交流と連携が活力を生むまちづくり
施策区分 重点施策	主管部等名 企画部	施策担当課 企画課
	課長名 伊藤 実	内線 2220
	施策関係課 産業振興支援課、公民館、文化会館、工業課、観光課、秘書課、危機管理・交通安全対策室、議会事務局、学校教育課、生涯学習・スポーツ課、農業課、リニア推進対策室	

1. 施策の目的と成果指標

施策の目的	施策の対象	対象指標	単位	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度見込
	市民、行政	住民人口	人	108,624	107,844	107,295	106,630	105,691	105,036	107,000
施策の意図	成果指標		単位	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度目標
	三遠南信、中京圏域と共通の課題を認識する協力し補完しあう	都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏)	%	8.5	-	9.2	8.8	10.2	9.2	10
		三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合	%	74.2	-	73.1	74.5	72.1	71.3	80
成果指標設定の考え方	三遠南信、中京圏域と課題を認識し協力補完しあうためには、何より市民の交流が大切なため。									
成果指標の把握方法(算定式など)	市民意識調査 問7 - 5 『三遠地域・中京圏の住民やグループとの交流活動をどの程度行っていますか』 * 『ほとんど行っていない』と『不明』以外を選択した市民の割合の合計									
	市民意識調査 問30 『あなたは、飯田市にとって三遠南信地域・中京圏との交流が重要だと思いますか』 * 『そう思う』と『どちらかと言えばそう思う』を選択した市民の割合の合計									
基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)	地域や地域経済の自立の観点から、歴史的・地理的・経済的に繋がりをもつ三遠南信・中京圏との連携をより深めていく(強めていく)ことが重要であり、行政や市民の間での交流を積極的に推進していくための目標値として設定した。									

2. 施策を担う主体

主体	施策の成果向上に向けた主体別の役割分担	ムトス指標と把握方法(把握方法と単位をカッコ書きする)	22年度実績	23年度目標
行政 市(国・県)	地域経営戦略として積極的に交流・連携する。 歴史・文化的に繋がり強い三遠南信・中京圏との交流・連携を市民に啓発する。	・三遠南信・中京圏で交流している自治体数 ・三遠南信・中京圏の情報発信数(三遠南信クチコミ情報メールマガジン発信回数)	32 月2回 (24)	116 月2回 (24)
市民等 市民(個人・事業者・各種団体)	積極的に交流・連携する意識を持つ。	・三遠南信・中京圏と連携している市民の割合と、団体の数	現段階は、行政の役割のみ数値設定	

3. 施策の成果達成度の分析

(1) 施策の成果達成度に対する平成22年度事務事業の総括				
事務事業全体の振り返り(総括)	・交流・連携の重点地区として位置づけている三遠南信については、連携ビジョンに基づいた事業を展開している。 ・その中で、NPO法人を中心とした「南信州交流の輪」が立ち上がり、市民レベルでの交流推進の基盤ができた。			
(2) 施策の成果達成度とその考察				
平成22年度の実績評価と根拠(理由)	21年度と比べて成果が向上した	21年度と比べて成果は変わらなかった	21年度と比べて成果は低下した	
	・三遠南信・中京圏内で交流に参加している市民の割合や重要だと思う市民の割合は微減となったが、7割を超える市民が三遠南信・中京圏との交流が重要と考えている状況がある。			
平成23年度の目標達成見込み	23年度で目標は達成できる	23年度での目標達成は難しい		

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?	近年は、水系(流域)・街道など、水や緑などの環境問題を中心に連携が深まる傾向にある。 市町村合併が進み、都市間の連携が更に強まることが予想される。 道州制導入の動きに伴い、三遠南信・中京圏との交流の重要性が益々高まっている。 三遠南信自動車道の建設促進に伴い、市民の交流がより活発になる可能性が高い。 浜松市・豊橋市では施策に「三遠南信交流」がある。南信州との交流を重要視している。 三遠南信地域連携ビジョンが策定され、三圏域の合意形成に基づき、推進体制の整備と今後の取り組み強化が不可欠となっている。
--	--

この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	<p>三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと感じている市民の割合は約7割と高いが、実際に交流に参加している市民の割合は少ない。(市民の意見)</p> <p>連携や交流を重要と考える意識は高まっており、行動に移していくことが必要である。</p> <p>国では道州制案が議論されており、議会からはもっと積極的に連携や交流を行うべきとの意見が出されている。意識の向上のため、広報や情報発信に取り組む必要がある。(基本構想・基本計画推進委員、議会)</p> <p>具体的なプロジェクトを立ち上げて、一つ一つ実績の積み上げて行く段階に入ってきている。(基本構想・基本計画推進委員)</p> <p>リニアや道州制等、飯田市としての主体性を持って新たな局面に対応する必要がある。(議会)</p> <p>リニア中央新幹線誘致を含め、中京圏との連携強化に向けた具体的な取り組みの検討が必要(議会)</p> <p>様々な主体のあらゆる交流の可能性を追求し、高速交通網の整備や経済文化の交流に連動した三遠南信・中京圏との連携をさらに図りたい(議会)</p> <p>市民交流、団体交流が大切、場を提供し、自主的な交流につなげる(基本構想・基本計画推進委員)</p>
--	---

5. 施策の事業(一般会計及び一部特別会計を含む)

	19年度決算	20年度決算	21年度決算	22年度決算見込み	23年度決算
施策事業費(人件費を除く)(千円)	2,165	1,741	5,360	980	
関連する事務事業の数(事業)	6	7	5	5	

6. 前期4年間の取組評価(総括)(セルの色が黄色の項目は政策・施策体系前期総括表(No. 1)に転記されます。)

施策の目的達成(対象を意図する状態にする)に向けて、前期4年間で重点的に取り組んできた事項とその評価	<p>三遠南信地域連携ビジョンの推進          南信州マーケティングショップの設置と情報発信          三遠南信自動車道整備促進</p> <p>平成19年度のサミットで合意された三遠南信地域連携ビジョン推進のため、三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)を発足、浜松市役所内に事務局体制を確立させ事業展開を図ってきた。</p> <p>三遠南信・中京圏との連携が必要だと感じている市民の割合は、毎年7割を超えており、リニア将来ビジョンや三遠南信自動車道建設促進の立場から、今後も重要性を増してくると考えられる。</p>
施策の現状と課題	<p>三遠南信地域連携ビジョンの具体的な推進のため、新たな連携組織の検討が続けられており、今後の新連携組織への枠組みづくりとスムーズな移行体制が必要となってくる。</p>
主体別の役割の発揮状況	<p>工業界を中心とした経済界、NPO、中高生、婦人会など多くの交流が行われている。</p>
行政として多様な主体に対する協働の働きかけの状況	<p>下伊那農業高校生によるモザイクカルチャー出展及び交流支援          中学生の交流会開催支援、教員の交流支援          連合婦人会と伊勢市との交流支援</p>
多様な主体の協働を推進していくための課題	<p>市民・団体を中心に市民レベルでの各種交流を推進することがますます重要となってくるが、その仕掛けと支援体制。</p>